

選手強化を妨げている要因分析 ——鳥取県の強化コーチを対象とした調査から——

山 根 成 之

(1991年5月29日受理)

緒 言

第40回国民体育大会（以下国民体育大会を「国体」という）で、鳥取県は総合優勝を果たした。第40回国体以前に開催された国体でも開催県が総合優勝を果たしているが、いずれの県においても時間の経過と共に風化現象がみられ、国体開催以降の成績は下降線をたどっている。

本県においても他県同様、国体開催以降の成績は芳しくなく、平成元年度の国体の成績は第43位という結果に終わっている。

鳥取県体育協会は、このような成績を不本意とし、①国体選手強化対策事業 ②ジュニア競技力向上対策事業という2本の柱を建て、選手強化を推進しているもの、平成2年度においても成果が上っているとは言い難い。

そこで、選手強化が効を奏していないのは何故なのか、どこに問題が潜んでいるのかを知るために鳥取県体育協会に登録されている強化コーチに対し調査を依頼し、それらを分析することにより、今後の選手強化に関する対策の手掛りを得ようとするものである。

調査方法

平成元年度、鳥取県体育協会に加盟している競技団体（37団体）より選出され、県体育協会に登録されている強化コーチ257名に、日頃強化活動を進めて行く上での悩み、問題点などを記した質問紙を送付し回答を得た。

調査用紙は、以下のように構成された。

1. フェイスシート

職業、年齢、性別、指導している種目、指導者として全国大会（中国大会）に出場させた経験の

有無。

2. 強化コーチ自身に関する質目項目 (28項目)
3. 強化コーチからみたプレーヤーに関する項目 (21項目)
4. 強化を取巻く環境に関する項目 (21項目)
5. 全質問項目中重要と思われる項目に順位を付ける。

調査期間は平成2年5～6月である。

結果と考察

1. 調査の概要

1. 1 フェイスシート

強化コーチ257名に送付した調査用紙の内173名から回答を得た。回収率は66.9%である。その内資料として使用出来ないもの1名を除外し、172名について分析を試みた。172名の種目別人数は表1に示す。

表1 種目別回答者数

種 目	回答者数	種 目	回答者数
スキー	6	軟式庭球	7
スケート	5	卓 球	5
アイスホッケー	4	軟式野球	2
水 泳	8	相 撲	4
漕 艇	6	フェンシング	2
ヨット	2	柔 道	1
カヌー	2	ソフトボール	8
ボウリング	2	バドミントン	4
陸上競技	9	弓 道	2
サッカー	3	剣 道	5
テニス	6	ラグビー	3
ホッケー	6	山 岳	5
ボクシング	3	アーチェリー	6
バレーボール	10	空 手	4
体操競技	10	銃剣道	4
バスケットボール	7	クレ射撃	1
レスリング	3	なぎなた	3
ウェイトリフティング	3	無記入	3
ハンドボール	4		
自転車競技	4	合 計	172

平均年齢は39.3才であり、女性は9名である。コーチとして全国大会に出場させた経験者は142名、中国大会にのみ出場させた経験者15名、両方ともに経験の無い者13名、無回答2名である。

職種は、中学校教員15名、高校教員78名、その他の公務員26名、自営業10名、その他（会社員・自衛隊員など）43名

1. 2 単純集計

各項目の単純集計を付表1に示す。

1. 3 重要項目3つについて

全質問項目中、最も重要と思われる順に3項目選び順位をつけて回答を得た。それらを集計したものを付表2に示す。主だったものを上げると、

一番大切と思われる項目は

仕事が忙しく指導時間が無い	31
予算があればもっと強くすることが出来る	12
県のスポーツ行政に熱意がない	11
プレーヤーは小学校時代から指導されねばならない	11

二番目に大切と思われる項目は

自分の指導する種目の人口が少ない	24
予算があればもっと強くすることが出来る	17
練習場所に不便を感じる	14

三番目にあげられているものは

予算があればもっと強くすることが出来る	17
プレーヤーは小学校時代から指導されねばならない	16
自分の指導する種目の競技人口が少ない	13

以上にみられるように、強化コーチは日頃、時間的要因、経済的要因、競技人口、競技の低年齢化、練習条件といった事項に悩みを抱いていると言えよう。

しかし、各コーチが抱えている悩みは分散されており、一番多くの回答を得ている項目でも、わずか31名にしか過ぎない。(附表2-1, 2-2参照)

2. 因子分析の結果

次にこれらの回答を総合的に捉える為因子分析を試みた。その結果について述べる。

2. 1 強化コーチ自身について

強化コーチ自身に対する質問項目(1~28)に主因子法を行い、9因子(固有値1.0以上)を抽出した。そこで得られた9因子にノーマルバリマックス法により軸の直交回転を行った。回転後の固有値・寄与率は表2の通りである。

表2 回転後の個有値・寄与率

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
個有値	6.8	1.3	1.2	1.0	0.8	0.6	0.5	0.5	0.4
寄与率	24.5	5.0	4.5	3.9	2.9	2.2	1.9	1.8	1.7
累積寄与率	24.5	29.4	33.9	37.8	40.7	42.9	44.8	46.6	48.3

因子負荷量0.4以上の質問項目を表3に、それらの各因子の解釈を行った結果を表4に示す。

表3 回転後の因子負荷量

因子	質問番号	質問項目	負荷量
I	24	指導技術・作戦についてわからない。	76500
	25	試合の分析の仕方がわからない。	75160
	23	チームワーク養成の仕方がわからない。	70707
	26	プレイヤーの適性の把握ができない。	53979
	15	指導するスポーツの技術が良くわからない。	48744
	27	体力養成の方法がわからない。	47704
	14	ケガなどの応急処置に困る。	41306
II	4	指導者としてのプライドがもてない。	67421
	5	自分にはプレイヤーの信頼がない。	63768
	3	指導に際し精神の寄りどころ(指導哲学)がない。	63578
	10	自分の指導がこれで良いのか不安である。	55855
	2	自分の指導力に限界を感じる	49630
	6	プレイヤーの性格がつかめない。	43915
III	18	技術の師範が示されないので困る。	58065
	16	スポーツ技術の情報が入らない。	45586
	19	強化のための情報が入らない。	44633
	9	指導者の研修が少ない。	42802
IV	17	どのプレイヤーを正選手として使用して良いかわからない。	75263
	22	一生懸命やってもむくわれない。	72105
V	1	仕事が忙しく指導時間がない。	70871
	28	初心者指導に時間をとられる。	55539
VI	11	どの位運動量をやらせれば良いのかわからない。	51949
	12	個人個人にあった指導が出来ない。	45300
VII	21	一生懸命やっても誰も認めてくれない。	52097

第Ⅰ因子は、指導技術をはじめ、作戦、チームワークなどに関する養成方法が良く分からないという項目に高い負荷量を示しているので「強化方法の因子」とした。

第Ⅱ因子は、指導者としてプライドが持てないという項目をはじめ、プレーヤーの信頼がない、これで良いのかどうか不安である、といった項目があがっており、これらの意味するところは、日頃指導は行っているものゝ、その指導にコーチ自から自信を持って当たっていないというものであるので「自信の因子」である。

第Ⅲ因子は、技術の師範が示されないので困る、という項目はコーチがプレーヤーに情報を提供するのに困難をきたしているものと解釈出来るし、他の項目は情報の入手に困っているという事を意味していることから「情報の因子」である。

表4 抽出された因子

因子番号	因子解釈
I	強化方法の因子
II	自信の因子
III	情報の因子
IV	解釈不能
V	時間の因子
VI	個人指導の因子
VII	解釈不能

第Ⅳ因子は解釈不能である。

第Ⅴ因子を「時間の因子」とした。

第Ⅵ因子は、強化方法を意味しているが、こゝでは「個人指導の因子」とした。

第Ⅶ因子は解釈不能である。

以上みたように、強化コーチは日常の勤務と強化指導という時間的制約の中で、強化の為の情報不足に悩み、これで良いのだろうかという不安の中で、コーチとしての自信のもてないまゝ強化に携っているという姿が浮び上る。

上述の如く幾つかの問題点が指摘され得るが、何と言っても重大な問題は、コーチがコーチとしての自信を持ち得ないで指導に携っているという現状であろう。

日本体育協会の報告⁽¹⁾によると、上級コーチ、スポーツ指導員等を対象とした講習会を開催し、講習会の有効性について調査したところ、「参加して非常に役立つ」「少し役立った」両者を合せ、参加者の51.5%の者が講習会が有効であった旨回答している。その結果「指導に自信が持てるようになった」「人間関係の幅が広がった」などの肯定的理由をあげている。

日進月歩するスポーツ技術及びトレーニング方法に関する研修を深めることにより、強化コーチ

達が自信を持って指導に取り組めるよう配慮することが急務である。このことが同時に、強化に関する情報不足を補う為にも必須を考えられる。

2. 2 強化コーチからみたプレーヤーの分析

各強化コーチが指導しているプレーヤーについて、コーチ達がプレーヤーをどのように感じ、どのように捉えているか（質問項目29—49）につき、前項と同様の因子の抽出を行った。

回転後の固有値・寄与率を表5に、固有値0.4以上の質問項目を表6に示す。これらの因子の解釈を行った結果は表7である。

表5 回転後の固有値

因子	I	II	III	IV	V
固有値	4.7	2.0	1.4	0.7	0.4
寄与率	22.6	9.7	7.0	3.6	2.4
累積寄与率	22.6	32.3	39.3	42.9	45.3

表6 回転後の因子負荷量

因子	質問番号	質問項目	負荷量
I	34	プレーヤーに根性がない。	78585
	35	プレーヤーはいざという時プレッシャーに弱い。	67712
	33	プレーヤーにやる気がない。	61204
	38	プレーヤーの集中力がない。	59003
	39	プレーヤーが実力を発揮しない。	57455
	48	プレーヤーの自立心がない。	47261
	41	プレーヤーは相手に勝つのだという気迫にとぼしい。	45793
	37	プレーヤーの体力がない（すぐ疲れる）。	43539
II	31	プレーヤーの体格（身長）が劣っている。	78462
	30	素質のあるプレーヤーが少ない。	76001
	32	プレーヤーの基礎運動技能が劣っている。	54604
	42	プレーヤーにスピードがない。	54394
III	29	進学とスポーツのあり方で悩む。	74345
	44	プレーヤーの親の理解がない。	72606
	45	プレーヤーの勉強のため練習時間が少ない。	64541
	49	プレーヤーは小学校時代から指導されなければならない。	55203
IV	40	プレーヤーが教えたことをなかなか憶えない。	63877
	43	プレーヤーが依存的である。	58247

第I因子は、プレーヤーに根性がない、プレッシャーに弱い、やる気がない、集中力がないなどの項目に高い負荷量がみられ、プレーヤーのスポーツに対する取り組む姿勢の甘さを意味していると考えられるので「競技意欲の因子」とした。

第II因子は、プレーヤーの体格、素質、基礎運動技能、スピード等が劣悪であるという項目なので「体格・基礎体力の因子」とした。

第III因子では、質問項目⑨の解釈が不可能であるが他の項目が全てスポーツと勉強の問題であるので「スポーツと勉強の因子」である。

第IV因子は、教えたことをなかなか憶えない、依存的であるという項目にみられるように、プレーヤー達の甘えた姿とも捉えることが出来るが、こゝでは「自主性の因子」とした。

表7 抽出された因子

因子番号	因子解釈
I	競技意欲の因子
II	体格・基礎体力の因子
III	スポーツと勉強の因子
IV	自主性の因子

以上の事項を総合すると、強化コーチは日頃接しているプレーヤーを以下の様に捉えていると言えよう。

即ち、プレーヤー達の競技意欲は低い上に基礎的体力に恵まれておらず、しかもスポーツと勉強という谷間で悩んでいるという姿である。

選手強化は、選手達の高い競技意欲に支えられ、その上に適切な指導があつて始めて結実するものである。ところが選手の競技意欲はあまり高くなく、強化にとっての一番重要な要因が欠除していると言わざるを得ない。

競技意欲の低さは、実は本県の選手のみに見られる現象ではなく、我が国スポーツ界一般に「ハングリー精神が足りない」という言葉で表わされている問題でもある。そのため名方面で競技意欲（やる気）に関する研究もみられる。松田らは体協意欲検査 (TSMI) 作成にあたって、競技達成動機は、①目標への挑戦 ②技術向上意欲 ③困難の克服 3つの要因から成り立つとした上で競技意欲開発トレーニングを提唱し、具備すべき基本的な条件としての次の5つをあげている。⁽²⁾これらに説明を加えておく。

(イ) 個人の目標やチームの目標の構造化と目標の決定

自己及びチームの分析を行うことにより、長所短所を明らかとし、過去の成績と照合し、達成可能な目標を設定する。目標は段階的に設定されなくてはならない。

(ロ) 進歩の程度の客観化と選手のフィードバック

練習に伴い多かれ少なかれ進歩がみられる訳であるが、進歩の度合を適確に捉え、選手達に理解し易く提示することにより、意欲を喚起し次への目標設定に役立てる。

(ハ) 個人とチームとの望ましい関係についての認識

チームの中で、自分はどうのような存在なのか、チームとどのように関わりを持つべきか、何をすべきかなどの認識を深める。

(ニ) トレーニング内容の新奇性

選手達が何に動機づけられるかという調査によると、1つが目標設定、2つが競争場面、3つが新奇性であるという。⁽³⁾ 練習内容は選手達の納得のゆくものであり、新奇性に富むものが望ましい。

(ホ) 選手個人の自己像やチーム像の意識化

目標を追求するには、自己及びチームがどのような姿でなければならないのか理解させ、理想像を描き、理想像に接近すべく意識をもたせる。

2. 3 強化を取巻く環境の分析

こゝでいう環境とは家庭、職場をはじめ同僚、経済的要因等を含む広い要因を意味する。従って質問項目50～70までの分析である。

回転後の固有値・寄与率を表8に、個有値0.4以上の質問項目を表9に示す。これらの因子の解釈は表10の通りである。

表8 回転後の固有値・寄与率

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII
個 有 値	5.3	1.5	1.3	0.7	0.6	0.5	0.5
寄 与 率	25.6	7.4	6.5	3.5	3.1	2.8	2.5
累積寄与率	25.6	32.9	39.5	43.0	46.1	48.9	51.5

第I因子には、予算、経済的問題に高い負荷量がみられる。次いで後援会、地域社会の理解不足などであるので「資金・バックアップの因子」とした。

第II因子の項目番号④以外は強化を推進して行くべき関係機関の強化に対する取り組みの甘さを指摘しているので「強化体制の因子」である。

第III因子は、強化コーチを取巻く人達のスポーツに対する理解のなさと認めることが出来るので「職場・家庭の理解の因子」である。

第V因子は「施設・用具の因子」であり、第IV、VI因子は解釈不能である。

以上抽出された因子をみると、強化コーチは地域社会、職場などでのスポーツに対する理解が得

表9 回転後の因子負荷量

因子	質問番号	質問項目	負荷量
I	55	予算があればもう少し強くすることができる。	71619
	56	経済的自己負担が多く困る。	66179
	68	後援会（父兄・OB）などの組織がなく困る。	64498
	50	指導時間をもっとあればもう少し強くすることができる。	52773
	60	自分の住んでいる地域社会の理解がない。	51765
II	62	県の強化指導がない。	81131
	63	強化に対する協会の態度が甘い。	75647
	61	県のスポーツ行政に熱意がない。	51118
	64	同僚の人間関係が悪い。	43969
III	57	職場の理解がない。	96835
	59	上司の理解がない。	75260
	58	家族の理解がない。	41659
IV	69	後援会（父兄・OB）などが口を出しすぎて困る。	88212
	67	本県のスポーツレベルは全国中位に入るべきだ。	58037
	66	本県のスポーツレベルは全国上位に入るべきだ。	44189
V	53	用具が不足している。	54285
	54	練習場所に不便を感じる。	50068
VI	70	勤務のため指導に没頭出来ない。	51018
VII	51	いつも留守をするので家族が犠牲になり困る。	51572
	65	本県のスポーツレベルは今のままで良い。	50558

表10 抽出された因子

因子番号	因子解釈
I	資金・バックアップの因子
II	強化体制の因子
III	職場・家族の理解の因子
IV	解釈不能
V	施設・用具の因子
VI	解釈不能
VII	解釈不能

られない状態で強化に携っている。しかも背景には強化体制への不満、施設用具などの不足に対する悩みを有している。

強化コーチの56.4%は「本県のスポーツレベルは全国上位に入るべきだ」という信念のもとに強化に携っているが、強化を取り巻く現実には厳しいものがある。

要 約

鳥取県体育協会に登録されている強化コーチ172名を対象として、強化を推進して行く上での問題点、悩み等につき質問紙を用いて調査した。

調査内容は、①強化コーチ自身に関する質問 ②強化コーチからみたプレーヤーに関する質問 ③強化を取巻く環境に関する質問等であった。

1. 全質問項目中、重要と思われる項目3つを選び順位をつけ回答を得た。その結果、

- 1 番目に大切とされた項目は「仕事が忙しく指導時間が無い」 31名
- 2 番目には「自分の指導する種目の競技人口が少い」 24名
- 3 番目には「予算があればもっと強くすることが出来る」 17名であった。

2. 因子分析の結果

(1) 強化コーチに関して

1) 強化方法 2) 自信の因子 3) 情報 4) 時間 などの因子が抽出され、強化コーチの日頃の悩みが分った。

(2) 強化コーチからみたプレーヤーに関して

1) 競技意欲 2) 体格・基礎体力 3) スポーツと勉学 4) 自主性などの因子が抽出され、プレーヤー達の現状の姿が浮彫りとなった。

(3) 強化を取巻く環境に関して

2) 資金・バックアップ 2) 強化体制 3) 職場・家族の理解 4) 施設・用具などの因子が抽出され、強化を取巻く現状は厳しいことが理解された。

上記の中、強化を推進して行く上で重要度が高く、関係者の努力により速効的に解決可能と思われる課題、「コーチが自信を持ち得るようにする対策」及び「選手の競技意欲を高めるための対策」につき考察を加えた。

(因子分析にあたって永山正男氏に多くの御協力を賜りました。こゝに深甚の謝意を表します。)

(注)

- (1) スポーツ指導者養成に関する社会学的研究。昭和61年度日本体育協会スポーツ科学研究報告No.X
- (2) スポーツ選手の心理適性に関する研究。昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告No.III
- (3) Haruo Nogawa; Motivational Techniques Preferred by Coaches and Elite Women Basketball Players in Japan Women's Basketball League. 日本体育学会第36回大会号

(参考文献)

- 1) 林保・山内弘継；達成動機の研究 誠信書房 1978
- 2) 宮本美沙子；やる気の心理学 創元社 1979
- 3) 調枝孝治他；スポーツ選手の強化を妨げている要因 昭和61年度広島県体育協会スポーツ医・科学研究報告
- 4) 調枝孝治他；スポーツ選手の強化を妨げている要因 昭和60年度広島県体育協会スポーツ医・科学研究報告
- 5) 久保玄次他；高専学生の競技意欲と集団適応性との関係について 日本体育学会第35回大会号
- 6) 勝部篤美・糸野豊編；コーチのための人間学 大修館書店 1981
- 7) 高岡英夫；トップアスリートの精神力—精神力の養成—体育の科学 41, 4 1991
- 8) 調枝孝治；スポーツ強化を妨げている要因 昭和62年度広島県体育協会スポーツ医・科学研究報告書
- 9) 叶平・杉原隆；日本と中国における競技動機の国際比較 スポーツ心理学研究 17-1 1990

(付表1-1) 選手強化を妨げている要因についての調査

質問 番号	質 問 項 目	回 答 () %				無 回 答
		とてもそう思う	そう思う	思わない	全然思わない	
1	仕事が忙しく指導時間がない	38 (22.2)	83 (48.5)	41 (24.0)	9 (5.3)	1
2	自分の指導力に限界を感じる	6 (3.5)	54 (31.4)	95 (55.2)	17 (9.9)	
3	指導に際し精神の寄りどころ (指導哲学) がない	3 (1.7)	20 (11.6)	122 (70.9)	27 (15.7)	
4	指導者としてプライドが持てない	2 (1.2)	11 (6.4)	120 (69.8)	39 (22.7)	
5	自分にはプレーヤーの信頼がない		11 (6.4)	128 (74.4)	33 (19.2)	
6	プレーヤーの性格がつかめない		26 (15.2)	117 (68.4)	28 (16.4)	1
7	練習時間がもっとあれば強くすることが出来る	37 (21.6)	87 (50.9)	41 (24.0)	6 (3.5)	1
8	自分は指導に対しての情熱は80%以上発揮している	17 (9.9)	100 (58.1)	50 (29.1)	5 (2.9)	
9	指導者の研修が少ない	25 (14.5)	81 (47.1)	56 (32.6)	10 (5.8)	
10	自分の指導がこれで良いのか不安である	9 (5.2)	63 (36.6)	87 (50.6)	13 (7.6)	
11	どの位運動量をやらせれば良いかわからない	3 (1.8)	19 (11.2)	134 (78.8)	14 (8.2)	2
12	個人個人にあった指導ができない	4 (2.3)	50 (29.2)	103 (60.2)	14 (8.2)	1
13	自分とプレーヤーとの年齢的ギャップが大きい	4 (2.3)	30 (17.5)	106 (62.0)	31 (18.1)	1
14	ケガなどの応急処置に困る	10 (5.8)	44 (25.6)	101 (58.7)	17 (9.9)	
15	指導するスポーツの技術が良くわからない	1 (0.6)	13 (7.6)	96 (55.8)	62 (36.0)	
16	スポーツ技術の情報が入らない	8 (4.7)	44 (25.7)	94 (55.0)	25 (14.6)	1
17	どのプレーヤーを正選手として使用して良いかわからない	1 (0.6)	6 (3.5)	112 (65.5)	52 (30.4)	1
18	技術の師範が示されないので困る	1 (0.6)	22 (12.8)	120 (69.8)	29 (16.9)	
19	強化のための情報が入らないので困る	8 (4.7)	51 (29.8)	90 (52.6)	22 (12.9)	1
20	強化するための同志が少ない	30 (17.4)	83 (48.3)	50 (29.1)	9 (5.2)	
21	一生懸命やっても誰も認めてくれない	2 (1.2)	32 (18.8)	112 (65.9)	24 (14.1)	2
22	一生懸命やってもむくわれない	4 (2.3)	45 (26.3)	99 (57.9)	23 (13.5)	1
23	チームワーク養成の仕方がわからない	2 (1.2)	16 (9.3)	130 (75.6)	24 (14.0)	
24	指導技術・作戦についてわからない	1 (0.6)	16 (9.3)	128 (74.4)	27 (15.7)	
25	試合の分析の仕方がわからない	2 (1.2)	11 (6.4)	133 (77.3)	26 (15.1)	
26	プレーヤーの適性の把握ができない	17 (9.8)	133 (10.0)	20 (78.2)	2 (11.8)	
27	体力養成の方法がわからない	2 (1.2)	21 (12.2)	132 (76.7)	17 (9.9)	
28	初心者指導に時間を取られる	16 (9.4)	84 (49.1)	66 (38.6)	5 (2.9)	1
29	進学とスポーツのあり方で悩む	23 (14.0)	61 (37.2)	75 (45.7)	5 (3.0)	8
30	素質のあるプレーヤーが少ない	34 (19.8)	87 (50.6)	48 (27.9)	3 (1.7)	
31	プレーヤーの体格 (身長) が劣っている	21 (12.2)	73 (42.4)	72 (41.9)	6 (3.5)	
32	プレーヤーの基礎運動能力が劣っている	25 (14.6)	93 (54.4)	49 (28.7)	4 (2.3)	1
33	プレーヤーにやる気がない	2 (1.2)	50 (29.1)	113 (65.7)	7 (4.1)	
34	プレーヤーに根性がない	6 (3.5)	75 (43.6)	86 (50.0)	5 (2.9)	
35	プレーヤーはいざという時プレッシャーに弱い	21 (12.2)	93 (54.1)	55 (32.0)	3 (1.7)	

(付表1-2)

質問 番号	質問項目	回答 (%)				無 回答
		とても思う	そう思う	思わない	全然思わない	
36	チームのまとまりがない	2 (1.2)	33 (19.3)	124 (72.5)	12 (7.0)	1
37	プレーヤーの体力がない(すぐ疲れる)	9 (5.2)	99 (57.6)	61 (35.5)	3 (1.7)	
38	プレーヤーの集中力がない	8 (4.7)	89 (51.7)	73 (42.4)	2 (1.2)	
39	プレーヤーが実力を発揮しない	5 (2.9)	72 (41.9)	89 (51.7)	6 (3.5)	
40	プレーヤーが教えたことをなかなか憶えない	6 (3.4)	72 (42.1)	90 (52.6)	3 (1.8)	1
41	プレーヤーは相手に勝つのだという気迫に乏しい	11 (6.4)	93 (54.4)	63 (36.8)	4 (2.3)	1
42	プレーヤーにスピードがない	6 (3.5)	97 (56.4)	67 (39.0)	2 (1.2)	
43	プレーヤーが依存的である	8 (4.7)	85 (50.3)	73 (43.2)	3 (1.8)	3
44	プレーヤーの親の理解がない	3 (1.8)	36 (21.7)	114 (68.7)	13 (7.8)	6
45	プレーヤーの勉強のため練習時間が少ない	16 (9.6)	54 (32.3)	89 (53.3)	8 (4.8)	5
46	プレーヤーのあがりで困っている	7 (4.2)	44 (26.3)	112 (67.1)	4 (2.4)	5
47	自分の指導する種目の競技人口が少ない	69 (40.4)	57 (33.3)	42 (24.6)	3 (1.8)	1
48	プレーヤーの自立心がない	8 (4.7)	85 (49.4)	76 (44.2)	3 (1.7)	
49	プレーヤーは小学校時代から指導されねばならない	59 (34.9)	53 (31.4)	53 (31.4)	4 (2.4)	3
50	指導時間がもっとあればもう少し強くすることができる	45 (26.3)	90 (52.6)	34 (19.9)	2 (1.2)	1
51	いつも留守をするので家族が犠牲になり困る	35 (20.6)	70 (41.2)	56 (32.9)	9 (5.3)	2
52	対外試合が思うように出来ない	36 (21.2)	74 (43.5)	57 (33.5)	3 (1.8)	2
53	用具が不足している	25 (14.6)	56 (32.7)	82 (48.0)	8 (4.7)	1
54	練習場所に不便を感じる	4 (23.3)	58 (33.7)	64 (37.2)	10 (5.8)	
55	予算があればもっと強くすることができる	68 (39.8)	72 (42.1)	30 (17.5)	1 (0.6)	1
56	経済的自己負担が多く困る	46 (26.8)	77 (45.0)	46 (26.9)	2 (1.2)	1
57	職場の理解がない	8 (4.7)	36 (21.1)	114 (66.7)	13 (7.6)	1
58	家族の理解がない	2 (1.2)	19 (11.0)	127 (73.8)	24 (14.0)	
59	上司の理解がない	11 (6.5)	28 (16.5)	115 (67.6)	16 (9.4)	2
60	自分の住んでいる地域社会の理解がない	5 (2.9)	42 (24.6)	111 (64.9)	13 (7.6)	1
61	県のスポーツ行政に熱意がない	37 (21.9)	59 (34.9)	67 (39.6)	6 (3.6)	3
62	県の強化指導がない	28 (16.4)	65 (38.0)	71 (41.5)	7 (4.1)	1
63	強化に対する協会の態度が甘い	22 (12.9)	59 (34.5)	84 (49.1)	6 (3.5)	1
64	同僚の人間関係が悪い	0 (0)	14 (8.2)	132 (77.2)	25 (14.6)	1
65	本県のスポーツレベルは今のままで良い	6 (3.5)	15 (8.8)	65 (38.2)	84 (49.4)	2
66	本県のスポーツレベルは全国上位に入るべきだ	30 (17.6)	66 (38.8)	65 (38.2)	9 (5.3)	2
67	本県のスポーツレベルは全国中位に入るべきだ	22 (13.6)	75 (46.3)	50 (30.9)	15 (9.3)	10
68	後援会(父兄・OB)などの組織がなく困る	12 (7.0)	47 (27.5)	99 (57.9)	13 (7.6)	1
69	後援会(父兄・OB)などが口を出し過ぎて困る	1 (0.6)	2 (1.2)	122 (73.1)	42 (25.1)	5
70	勤務のため指導に没頭できない	41 (23.8)	60 (34.9)	62 (36.0)	9 (5.2)	

(付表 2-1) 重要項目として選択された3項目

質問 番号	質 問 項 目	1 番大切	2 番目に 大切	3 番目に 大切
1	仕事が忙しく指導時間がない	31	1	2
2	自分の指導力に限界を感じる	3	1	
3	指導に際し精神の寄りどころ(指導哲学)がない	5		3
4	指導者としてプライドが持てない	1		
5	自分にはプレーヤーの信頼がない	1	1	
6	プレーヤーの性格がつかめない			
7	練習時間がもっとあれば強くすることが出来る	7		3
8	自分は指導に対しての情熱は80%以上発揮している	4	1	
9	指導者の研修が少ない	3	3	
10	自分の指導がこれで良いのか不安である	1		
11	どの位運動量をやらせれば良いのかわからない			
12	個人個人にあった指導ができない		1	1
13	自分とプレーヤーとの年齢的ギャップが大きい	1		
14	ケガなどの応急処置に困る	1	1	1
15	指導するスポーツの技術が良くわからない		1	
16	スポーツ技術の情報が入らない	1	1	
17	どのプレーヤーを正選手として使用して良いかわからない			
18	技術の師範が示されないので困る		1	
19	強化のための情報が入らないので困る	3		
20	強化するための同志が少ない	3	4	3
21	一生懸命やっても誰も認めてくれない			
22	一生懸命やってもむくわれぬ			1
23	チームワーク養成の仕方がわからない		1	
24	指導技術・作戦についてわからない			
25	試合の分析の仕方がわからない			
26	プレーヤーの適性の把握ができない			
27	体力養成の方法がわからない		1	
28	初心者指導に時間を取られる	2		
29	進学とスポーツのあり方で悩む	6	3	3
30	素質のあるプレーヤーが少ない	5	6	3
31	プレーヤーの体格(身長)が劣っている	2	3	1
32	プレーヤーの基礎運動技能が劣っている	5	4	2
33	プレーヤーにやる気がない	3	3	
34	プレーヤーに根性がない		2	2
35	プレーヤーはいざという時プレッシャーに弱い	1	2	4

(付表2-2)

質問 番号	質 問 項 目	1 番大切	2 番目に 大切	3 番目に 大切
36	チームのまとまりがない	1		
37	プレーヤーの体力がない (すぐ疲れる)		3	1
38	プレーヤーの集中力がない	2	1	
39	プレーヤーが実力を発揮しない		1	
40	プレーヤーが教えたことをなかなか憶えない			
41	プレーヤーは相手に勝つのだという気迫に乏しい	3	2	3
42	プレーヤーにスピードがない			
43	プレーヤーが依存的である		2	2
44	プレーヤーの親の理解がない	1	2	1
45	プレーヤーの勉強のため練習時間が短い	1	3	1
46	プレーヤーのあがりで困っている			
47	自分の指導する種目の競技人口が少ない	10	24	13
48	プレーヤーの自立心がない	1		
49	プレーヤーは小学校時代から指導されねばならない	11	8	16
50	指導時間がもっとあればもう少し強くすることができる	1	9	8
51	いつも留守をするので家族が犠牲になり困る	1		4
52	対外試合が思うように出来ない	3	7	10
53	用具が不足している		2	2
54	練習場所に不便を感じる	4	14	6
55	予算があればもっと強くすることができる	12	17	17
56	経済的自己負担が多く困る	2	3	10
57	職場の理解がない	1	6	3
58	家族の理解がない		2	3
59	上司の理解がない		2	
60	自分の住んでいる地域社会の理解がない	2		1
61	県のスポーツ行政に熱意がない	11	11	9
62	県の強化指導がない	2	1	5
63	強化に対する協会の態度が甘い	3	4	5
64	同僚の人間関係が悪い			1
65	本県のスポーツレベルは今のままで良い	2		
66	本県のスポーツレベルは全国上位に入るべきだ	2	2	2
67	本県のスポーツレベルは全国中位に入るべきだ	1		2
68	後援会 (父兄・OB) などの組織がなく困る			
69	後援会 (父兄・OB) などが口を出し過ぎて困る			
70	勤務のため指導に没頭できない	2	1	8
	無 回 答	4	4	10

